

2017年12月18日

日本イーライリリー株式会社
〒651-0086
神戸市中央区磯上通 7-1-5
www.lilly.co.jp

EL17-70

47 都道府県の 2 型糖尿病患者さんの残薬に関する調査 群馬県の正しく服薬できなかった経験を持つ人の割合は約 40% ～ 群馬県の患者さんは、『うっかり飲み忘れ』タイプが多い ～

日本イーライリリー株式会社(本社:兵庫県神戸市、代表取締役社長:パトリック・ジョンソン、以下、日本イーライリリー)は、全国 47 都道府県の経口糖尿病治療薬服薬中の 2 型糖尿病患者さん 2,942 名を対象に残薬に関する調査を実施しました。

今回の調査の結果、全国の 2 型糖尿病患者さんは経口糖尿病治療薬とそれ以外の薬を合わせた医師から指示されている薬の服薬回数^{*1}は 1 カ月あたり^{*2}平均約 169 回で、そのうち現在手元に残っている量は平均約 13 回分であることがわかりました。

<群馬県の 2 型糖尿病患者さんについて>

調査結果のうち、群馬県の 2 型糖尿病患者さん(対象:54 名)の服薬状況について見ると、医師の指示通りに服薬できなかった回数は 1 カ月あたり平均 6.9 回(全国平均 5.1 回)で、全国でワースト 7 位となりました。また 40.7%の患者さんが「処方されている飲み薬をすべて服用できずに残ることがある」と回答し(全国平均 35.8%)、正しく服薬できなかった経験を持つ人が全国でワースト 8 位であることがわかりました。

直近 1 カ月で医師の指示通りに服薬しなかった経験がある患者さん(対象:27 名)に、処方された薬を服用しないことがある理由を聞いたところ、「ついうっかり忘れてしまう」(48.1%)、「外出の際に持っていくのを忘れる」(37.0%)が多く、この調査では『うっかり飲み忘れ』タイプが群馬県の 2 型糖尿病患者さんに多いことが伺えます。

また処方されている経口治療薬すべて(糖尿病治療薬とそれ以外の薬)について残薬があることを医療従事者に申告しているか聞いたところ、群馬県の 2 型糖尿病患者さんは 37.0%が「申告していない」と回答し、全国平均より 10.5 ポイント高く、残薬申告状況は全国でワースト 6 位でした。薬を残すことなく服用するためには「薬の一包化」(48.1%)、「服用する飲み薬の種類を減らす」(22.2%)と回答した人が多く、患者さんのニーズやライフスタイルに合わせた治療が求められていることが示唆されました。

医師の指示通りに服薬できなかった
1 カ月あたりの回数ランキング

順位	都道府県 (サンプル数)	回数	全国 平均
1	沖縄県(44)	10.0回	5.1回
2	大阪府(113)	8.8回	
3	福岡県(110)	8.3回	
4	富山県(34)	8.1回	
5	秋田県(34)	7.4回	
6	鳥取県(34)	7.2回	
7	群馬県(54)	6.9回	
⋮			
47	岐阜県(51)	1.8回	

残薬を医療従事者に申告していないランキング

順位	都道府県 (サンプル数)	残薬を申告 していない	全国 平均
1	和歌山県(35)	45.7%	26.5%
2	高知県(38)	44.7%	
3	青森県(33)	39.4%	
4	長崎県(32)	37.5%	
5	愛媛県(35)	37.1%	
6	群馬県(54)	37.0%	
7	栃木県(54)	37.0%	
⋮			
47	沖縄県(44)	11.4%	

※1 服薬回数について:

本調査での服薬の回数は、1日に複数回または1日に複数種類の服薬をしている場合、それらを合算した延べ回数として集計しています

※2 1カ月の日数について:

本調査での1カ月の日数は、28日換算です

【群馬県の2型糖尿病患者さんに関する主な結果】

<残薬状況とその理由>

- ◆ 群馬県の2型糖尿病患者さんが、現在処方されているすべての経口治療薬(糖尿病治療薬とそれ以外の薬)で医師から指示されている 1カ月あたりの平均服薬回数は183.4回で、全国平均169.2回と比較して多い
- ◆ 医師の指示通りに服薬できなかった1カ月あたりの回数は平均6.9回(全国平均5.1回)となり 全国ワースト7位
- ◆ 正しく服薬できなかった経験を持つ人は40.7%(全国平均35.8%)となり、全国ワースト8位
- ◆ 現在手元に残っている処方された薬の量は、14.7回分(全国平均12.9回分)
- ◆ 直近1カ月で医師の指示通りに服薬しなかった経験がある患者さん(対象:27名)に、処方された薬を服用しないことがある理由を聞いたところ、「特に理由はないが、ついうっかり忘れてしまう」(48.1%)が圧倒的に多く、次いで「外出の際に持って行くのを忘れる」(37.0%)で、『うっかり飲み忘れ』タイプが多い

<残薬の申告状況>

- ◆ 薬が残っていることを医療従事者に申告していない患者さんは37.0%で、全国平均26.5%よりも高く、残薬申告率は全国ワースト6位

<残薬の改善方法>

- ◆ どうすれば経口治療薬をすべて服用できるようになるか聞いたところ、「薬の一包化」(48.1%)、次いで「服用する飲み薬の種類を減らす」(22.2%)、「服用回数の少ない飲み薬に変更する」(18.5%)が多い

【調査概要】

調査目的 : 47都道府県の2型糖尿病患者さんを対象に、経口糖尿病治療薬の残薬の有無に影響する因子を明らかにする

調査対象 : 20歳以上で医師から2型糖尿病の診断がなされており、かつ現在通院中で薬物療法を行っている患者さん(2,942名)※内訳は以下の通り

北海道(118)	青森県(33)	岩手県(52)	宮城県(105)	秋田県(33)
山形県(41)	福島県(52)	茨城県(106)	栃木県(54)	群馬県(54)
埼玉県(111)	千葉県(112)	東京都(126)	神奈川県(111)	新潟県(56)
富山県(34)	石川県(33)	福井県(40)	山梨県(31)	長野県(53)
岐阜県(51)	静岡県(112)	愛知県(114)	三重県(55)	滋賀県(33)
京都府(104)	大阪府(113)	兵庫県(108)	奈良県(57)	和歌山県(35)
鳥取県(34)	島根県(48)	岡山県(53)	広島県(107)	山口県(33)
徳島県(38)	香川県(34)	愛媛県(35)	高知県(38)	福岡県(110)
佐賀県(40)	長崎県(32)	熊本県(34)	大分県(47)	宮崎県(45)
鹿児島県(33)	沖縄県(44)			※()の中は有効回答数

調査地域 : 47都道府県

調査手法 : インターネット、郵送または訪問留置による調査(実査は株式会社メディリードに委託)

調査時期 : 2017年4月24日~5月16日

備考 : 全国の値はウェイトバックを実施

【主な調査結果】

＜残薬状況とその理由＞

- ◆ 群馬県の2型糖尿病患者さんが、現在処方されているすべての経口治療薬(糖尿病薬とそれ以外の薬)で医師から指示されている1カ月あたりの平均服薬回数は、**183.4回**(全国平均 169.2回)
- ◆ 医師の指示通りに服薬できなかった1カ月あたりの回数は平均 6.9回(全国平均 5.1回)で、**群馬県は全国ワースト7位**
- ◆ 群馬県の2型糖尿病患者さんのうち、正しく服薬できなかった経験を持つ人は **40.7%**(全国平均 35.8%)で、**全国ワースト8位**

医師の指示通りに服薬できなかった1カ月あたりの回数ランキング

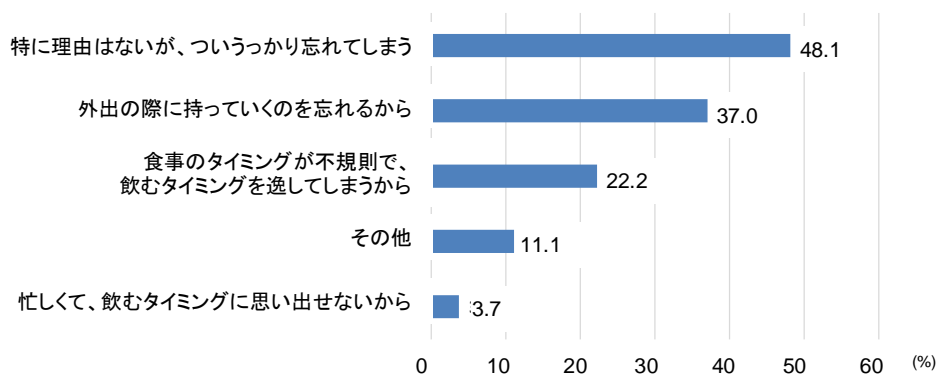
順位	都道府県 (サンプル数)	回数	全国 平均
1	沖縄県(44)	10.0回	5.1回
2	大阪府(113)	8.8回	
3	福岡県(110)	8.3回	
4	富山県(34)	8.1回	
5	秋田県(34)	7.4回	
6	鳥取県(34)	7.2回	
7	群馬県(54)	6.9回	
8	山口県(33)	6.6回	
9	宮城県(105)	6.5回	
10	千葉県(112)	6.1回	
⋮			
47	岐阜県(51)	1.8回	

Q.処方されている飲み薬をすべて服用できずに残ることはありますか。

順位	都道府県 (サンプル数)	飲み薬が残ることがある(%)	全国 平均
1	愛媛県(35)	45.7%	35.8%
2	香川県(34)	44.1%	
3	長崎県(32)	43.8%	
4	栃木県(54)	42.6%	
5	高知県(38)	42.1%	
6	岡山県(53)	41.5%	
7	千葉県(112)	41.1%	
8	群馬県(54)	40.7%	
9	茨城県(106)	40.6%	
10	広島県(107)	40.2%	
⋮			
47	山口県(33)	21.2%	

- ◆ 群馬県の2型糖尿病患者さんの現在手元に残っている処方されたすべての経口治療薬の量は、14.7回分(全国平均 12.9回分)
- ◆ 直近1カ月で医師の指示通りに服薬しなかった経験がある患者さん(対象:27名)に、処方された薬を服用しないことがある理由を聞いたところ、「特に理由はないが、ついすっかり忘れてしまう」が48.1%、「外出の際に持って行くのを忘れる」37.0%。**群馬県の2型糖尿病患者さんは『すっかり飲み忘れ』タイプが多い**

Q.処方された飲み薬を服用しないことがある理由を教えてください。(n=27)



<残薬の申告状況>

- ◆ 薬が残っていることを医療従事者に申告していない群馬県の2型糖尿病患者さんは37.0%で全国平均26.5%よりも高く、**残薬申告率は全国ワースト6位**

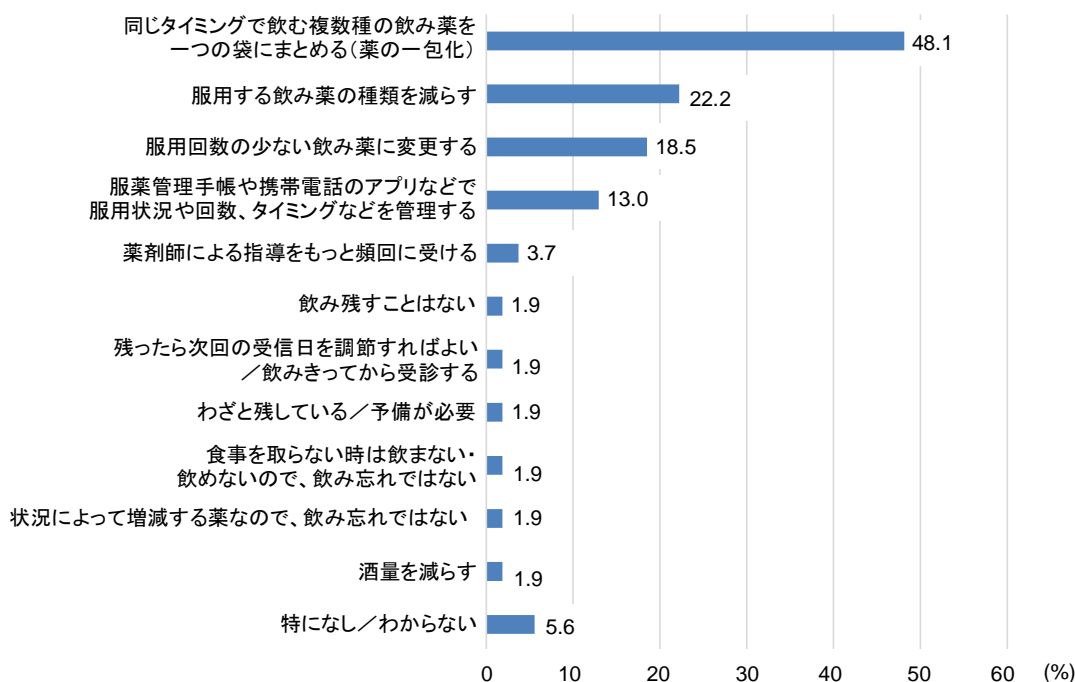
残薬を医療従事者に申告していないランキング

順位	都道府県 (サンプル数)	残薬を申告 していない	全国 平均
1	和歌山県(35)	45.7%	26.5%
2	高知県(38)	44.7%	
3	青森県(33)	39.4%	
4	長崎県(32)	37.5%	
5	愛媛県(35)	37.1%	
6	栃木県(54)	37.0%	
6	群馬県(54)	37.0%	
8	大分県(47)	36.2%	
9	鳥取県(34)	35.3%	
9	熊本県(34)	35.3%	
:			
47	沖縄県(44)	11.4%	

<残薬の改善方法>

- ◆ どうすれば経口治療薬をすべて服用できるようになるか聞いたところ、「薬の一包化」(48.1%)、次いで「服用する飲み薬の種類を減らす」(22.2%)、「服用回数の少ない飲み薬に変更する」(18.5%)が多かった

Q.どうすれば残すことなく飲み薬をすべて服用できるようになりますか。(n=54)



イーライリリー・アンド・カンパニーの糖尿病事業について

イーライリリー・アンド・カンパニーは 1923 年に世界で初めてインスリン製剤を開発して以来、糖尿病ケアの分野において常に世界をリードしてきました。現在も、糖尿病をもつ人々やケアを行う人々の様々なニーズに応えることで、この伝統を築いています。研究開発や事業提携、拡大し続ける幅広い医薬品ポートフォリオ、そして、医薬品からサポートプログラムをはじめとする実質的なソリューションを提供し続けることを通じて、世界中の糖尿病をもつ人々の生活の改善に努めます。

詳細はウェブサイトをご覧ください。 <http://www.lillydiabetes.com>

イーライリリー・アンド・カンパニーについて

イーライリリー社は、世界中の人々の生活をより良いものにするためにケアと創薬を結び付けるヘルスケアにおける世界的なリーダーです。イーライリリー社は、1世紀以上前に、真のニーズを満たす高品質の医薬品を創造することに全力を尽くした1人の男性によって設立され、今日でもすべての業務においてその使命に忠実であり続けています。世界中で、イーライリリー社の従業員は、それを必要とする人々の人生を変えるような医薬品を開発し届けるため、病気についての理解と管理を向上させるため、そして慈善活動とボランティア活動を通じて地域社会に利益を還元するために働いています。詳細はウェブサイトをご覧ください。 www.lilly.com および <http://newsroom.lilly.com/social-channels>

日本イーライリリーについて

日本イーライリリー株式会社は、米国イーライリリー・アンド・カンパニーの日本法人です。人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう、革新的な医薬品の開発・製造・輸入・販売を通じ、がん、糖尿病、筋骨格系疾患、中枢神経系疾患、自己免疫疾患、成長障害、疼痛、などの領域で日本の医療に貢献しています。

詳細はウェブサイトをご覧ください。 <http://www.lilly.co.jp>